

AGIBOT JAPAN

AGIBOT

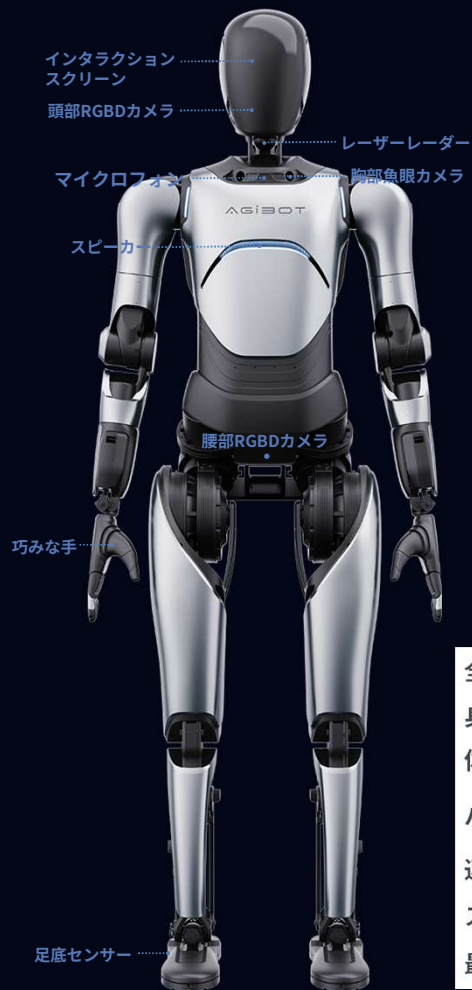
A2

フルサイズヒューマノイドロボット

業界初の大規模商用導入を実現したフルサイズヒューマノイド。
接客、エンタメ、そしてビジネス、あらゆるシーンで驚きと感動を届けます。



製品仕様（スペック）



全身自由度	40+
身長	169 cm
体重	69 kg
バッテリー	700Wh 交換・充電対応
連続駆動時間	2 H
スマート知覚	360°
最小回転幅	60 cm

1 106kmを歩行した驚異のタフネス

- ・世界最長記録を達成：蘇州～上海間を56時間で踏破。人型ロボットの最長歩行距離としてギネス世界記録に認定されました。これによりでこぼこ道でも姿勢を崩さず歩き続ける、圧倒的な歩行安定性を証明しました。
- ・高度な環境適応ナビゲーション：人混みや車両が行き交う予測不可能な屋外環境でも自律的に判断してルートを進みます。



2 未来の専属コンシェルジュ

- ・顔認識によるシームレスな対応：カーディーラーでは以前来店されたお客様を認識し、前回の案内の続きからスムーズに商談を再開します。
- ・的確なご提案：車のスペックから割引キャンペーンまで、ニーズに合わせてご提案します。
- ・自律的な「おもてなし」：お客様へお飲み物を提案・提供するなど、状況に応じたきめ細やかなおもてなしを実現します。



3 案内と解説をこなすスマートガイド

- ・自然な対話によるエスコート：エントランスで来場者を歓迎し、人間のような自然な会話で目的地までご案内します。
- ・高度な展示解説：専門用語を含む展示物や製品内容もスムーズかつ正確に解説します。さらに音声を正確に拾音し、展示会場内などでも来場者の質問にスムーズに回答します。

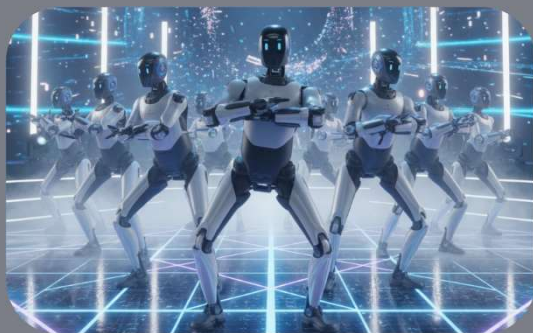


4 次世代PRアンバサダー

- ・自社の魅力を体現：モジュール設計により、企業カラーやロゴ、自社キャラクターなど外観カスタマイズに柔軟に対応します。
- ・観客を魅了するパフォーマンス：司会進行、ダンス、マジック、楽器演奏、人間とのコントなど多彩なパフォーマンスで驚きと楽しさを提供します。



日常を非日常に変える「エンタメの力」



パフォーマンス体験

全身を使った“観るエンタメ”

- 商業施設やイベント会場で、人型ダンスによるパフォーマンス演出を実施
- 展示会・イベントで音楽に合わせたダンスや複数台連動の演舞を実証
- 展示会ブース前で来場者を惹きつける動作披露
- 事前プログラムによる演奏・演舞で、視覚的に訴求力の高いステージ演出が可能



インタラクティブ体験

話しかけると反応する“参加型エンタメ”

- 展示会や商業施設で音声認識と自然対話により、来客の問いかけ対応を実証
- 10種類以上の表情、100以上の動作を組み合わせ、冗談や驚きなどの感情表現を演出
- 高精度な音声取得が可能のため、混雑したイベント会場でも対話性能を実地検証
- 直感的な話しかけ操作で、年齢を問わず楽しめる体験設計



ブランド×エンタメ

“会いに来たくなる存在”としての活用

- ブランドやイメージキャラクターに合わせた外装・設定が可能（PR用途で導入検討中）
- 新製品発表イベントや展示作品の背景を、動作と音声を交えて紹介（展示・PRで実証）
- 撮影スポットなどSNSやメディア等拡散性の高いコンテンツ制作に対応

暮らしとビジネスを支える「A2ができること」



接客・フロント業務

人の代わりに“安定して対応する存在”

- ・来訪者を歓迎し、顔認証による個人識別や呼称対応で、受付・案内業務を自動化
- ・自律移動と障害物回避により、混雑環境でも安全に施設内を案内（実運用で活用）
- ・業務知識ベースと連動し、多言語Q&Aで外国人来訪者にも均一な案内を提供（実証段階）
- ・人手不足の時間帯や夜間対応を補完し、常時稼働体制を支援



展示・マーケティング支援

“説明できるロボット”による情報伝達

- ・製品・展示解説において、質問内容に応じて説明を切り替える柔軟な案内を実証
- ・説明品質を均一化し、担当者による情報のばらつきを防止
- ・企業専用知識を組み込み、訴求ポイントを外さないマーケティングトークを実現
- ・定話ログを活用し、展示内容や説明方法の改善につなげる運用を想定



業務相談・案内業務

“聞かれる仕事”を任せられる存在

- ・社内・施設内の問い合わせ対応を自律化し、人的対応を削減（実証・導入準備段階）
- ・手続きや利用方法を、対話形式で分かりやすく案内
- ・混雑時の一次対応を担い、人による対応の集中を緩和
- ・完全代替ではなく、人の業務負担を軽減する協調的な配置を想定

A2が切り拓く「未来の景色」

01



PRESENT

国内外で始まるA2の活用の広がり

研究や実証段階を越え、実際の業務現場での活用が始まっています。商業施設や展示会では、接客・案内・展示解説を担い、製造や物流の現場では作業補助や巡回といった役割で導入が進んでいます。

人と同じ空間を歩き、対話し、状況に応じて動ける特性により、既存の設備や業務フローを大きく変えずに導入できる点が評価されています。

A2はすでに「試す存在」から「現場で使われる存在」へ移行しつつあります。

02



FEW YEARS

業務と日常に溶け込むA2の定常利用

単発導入から常設・定常利用へと広がっていきます。受付・案内・接客に加え、物流補助、施設管理、業務問い合わせ対応など、複数の業務を横断的に支える存在として運用されるケースが増えていきます。

人の判断や対応を完全に置き換えるのではなく、人の業務を補い、負荷を軽減する役割として定着する点が特徴です。

A2は、現場の効率化とサービス品質の安定を同時に実現する手段として期待されています。

03



FUTURE VISION

社会インフラの一部として機能

その先の未来では、企業や施設単位を超え、社会基盤の一部として活用されていきます。医療・介護・観光・教育・公共施設など、人の関与が不可欠で負担の大きい領域において、常時稼働する支援役としての役割が広がります。

AIと知覚・移動・対話機能の高度化により、環境や状況を理解し、適切に行動できる存在へ進化していきます。

A2は、人の活動を支える「動ける知能」として、社会に組み込まれていく未来が想定されています。

※画像はイメージです。